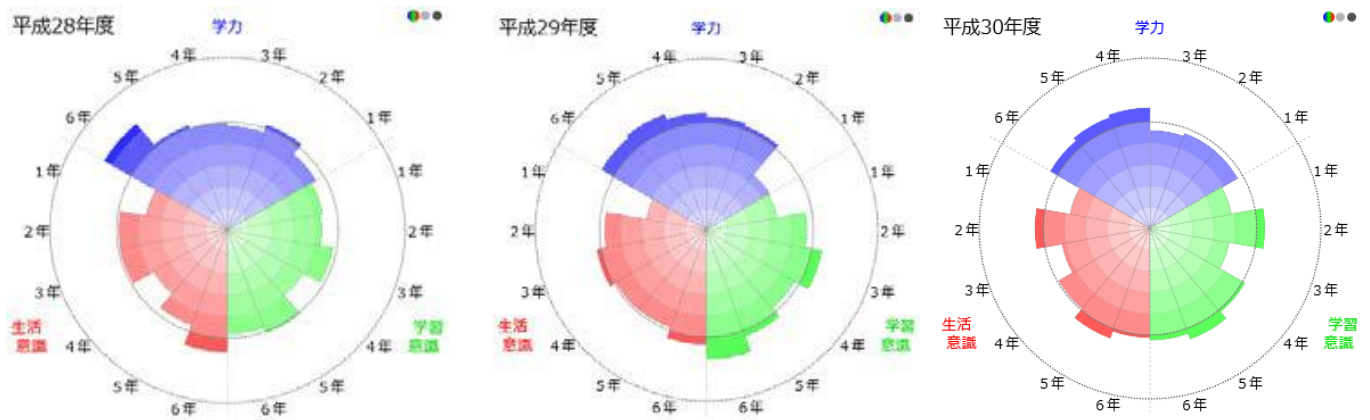


保護者様

横浜市立浦島小学校
校長 鳥山 真

平成30年度実施「横浜市学力・学習状況調査」結果について

○平成31年2月に市内の1～6年生を対象に実施した「横浜市学力・学習状況調査」の結果です。
本校児童の学習状況を分析し、まとめました。



(1) 学力の概要と要因の分析

全体的には、横浜市の平均的な学力であるが、学年によっては、市平均を大きく上回ったり、下回ったりしている。学力が高い学年は、比較的生活意識も学習意識も高いなど、学力と意識には相関が見られる。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：高学年は「読む」、低学年は「書く」が市の平均を上回っている。
- 社会科：学年によって差はあるが、全体的にどの観点も、市の平均とほぼ同じか、やや上回っている。
- 算数科：「数学的な考え方」は市の平均を上回っている学年が多い。「知識・理解」は下回る学年が多い。
- 理科：「技能」については、学年が上がるにつれて、市の平均を上回ってきている。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

平成28年度から30年度までの過去3年間の経年変化の状況をみると、学校全体としてどの教科もほぼ平均値に近いところで変化はしていないが、どの年度も高学年は市の平均を上回っている。学年が上がるにつれて学力が上がる傾向にあるのは、学年の実態に応じた取組の成果だと考える。

○令和元年度の各学年の取組をまとめました。

【2年生（昨年度の1年生）】

現状

国語：ほぼ市の平均と同じだが、正答率が高い項目は、「話す・聞く能力」「書く能力」である。「読む能力」「言語能力」は正答率が低く、特に「文章の中の大事な語や文を書きぬく」「文の中で正しく漢字を書く」の項目については、課題がある。

算数：ほぼ市の平均と同じだったが、正答率が高い項目は、「数学的な考え方」である。「技能」「知識・理解」は、やや正答率が低く、特に「ものの集まりを分類整理することや、数量の多少などの特徴を読み取ること」「時刻の読み方」「3つの数の混合計算」の項目については、課題がある。全体としては、「勉強が好き」「どちらかという好き」だと答えた子どもの方が正答率が高い傾向にある。

学年・教科等としての取組

- 国語などの学習場面では、書くことを多く取り入れ、その中で、漢字や助詞などを正しく書けるよう指導していく。また、文章の中の大事な語や登場人物の様子を想像しながら読書する場面を増やす。
- 計算などの基礎的な技能が定着するよう反復練習を多く取り入れる。

【3年生（昨年度の2年生）】

現状

国語：昨年度と比較すると、全ての観点において、15%から20%正答率が上がっている。特に「話す・聞く」の項目が市の平均と比較しても大きく上回っている。また、「国語の学習が好き」「国語の学習が大切」と答えた児童の割合がほぼ90%である。しかしながら、市の平均には届いていないので、基礎基本の定着を図る必要がある。

算数：昨年度と比較すると、「知識・理解」「考え方」が5%から10%正答率が上がっている。特に「考え方」の項目は市の平均と同等ではあるが、昨年度に比べ、10%以上高まっていた。また、「算数の学習が大切」と答えた児童の割合が90%を超えている。しかしながら、「算数の学習が好き」と答えた児童の割合が約80%であり、市の平均より下回っている。「技能」の定着にも課題が残る。

学年・教科等としての取組

- 「話す・聞く」の学力の高まりは全体的な観点の向上に寄与していたと考えられるため、引き続き考えを伝えたり聞いたりする学習を大切にしていきたい。
- 一方で、国語・算数とも、基礎基本の定着に課題が見られたため、反復練習や振り返りの時間を適宜設定し、繰り返し学習内容の習熟を図れるようにする。

【4年生（昨年度の3年生）】

現状

国語：昨年度と同様に「話す・聞く能力」と「書く能力」についての項目が優れているが、「読む能力」について課題がある。相手やめあてに沿って段落や組み立てを考えて書いている児童が多い。

社会：「知識・理解」についての項目が優れている。「自分自身の生活や社会に出て役立つ」と答えている児童の多くに、問題の正答率が高い傾向が見られる。

算数：「勉強が大切」だと答えている児童は多いが、正答率は低い。「数と計算」の「数学的な考え方」と「技能」についての項目は優れているが、「量と測定」「数量関係」については課題がある。

理科：「身近な自然の観察」の「知識・理解」についての項目が優れている。実験や観察など体験的な学習が好きな児童が多いが、考えたことを表現することに苦手意識をもつ児童が多くみられる。

学年・教科等としての取組

- 算数・理科などで論理的に説明する文章を書くことや国語・総合的な学習の時間などで自分の思いや意見を書く時間を設け、表現する活動を大切にす。
- めあてを意識し、根拠をもって自分の考えを述べたり、相手の考えを取り入れたりしながら学習するように指導していく。
- 理科では、実験や観察など体験的な学習を充実させ、技能の定着を図る。

【5年生（昨年度の4年生）】

現状

国語：どの項目も優れているが、とくに「書く能力」についての項目が優れている。「相手やめあてにそって、段落や組み立てを考えて書いている」と答えた児童の正答率が高い。

社会：「基礎・基本」「活用」のどちらもやや優れている。「社会科の学習は、普段の生活や社会に出て役立つと思う」と答えた児童の正答率が高い。

算数：「数学的な考え方」についての項目が優れているが、「技能」について課題がある。「自分の考えを数や式、言葉で説明しようとしている」と答えた児童の多くが、正答率が高く、関連が見られる。

理科：「技能」についての項目がとくに優れている。「自分の考えを図や言葉で表現することが好き」と答えた児童の正答率が高い。

学年・教科等としての取組

- 友達と意見を交わし合ったり、協働して学習課題に取り組んだりする機会を大切にする。
- ふりかえりの時間を大切にし、自分自身の学びを実感しながら積み重ねると同時に、さらなる学習意欲へつなげる。
- 計算問題など基礎・基本となる課題に繰り返し取り組み、学習内容の定着を図る。

【6年生（昨年度の5年生）】

現状

国語：めあてに沿って学習することを意識できている。昨年度に引き続き「話す・聞く」と「読む能力」についての項目が優れている。しかし、「書く能力」について課題がある。

社会：「基礎・基本」や「活用」が全体的に優れており、疑問に思ったことを調べたり、話し合ったりして学習しようとする意識が高い。

算数：「勉強が好き」や「大切だと思っている」と答えている児童が多い。「技能」について高まりが見られたが、関係性に着目して説明したり、場面が変わっても同じようにきまりが使えたりすることに課題がある。

理科：普段の生活と関係づけて考えようとする意識が高く、「基礎・基本」や「活用」が全体的に優れている。

学年・教科等としての取組

- 他教科での学習で、論理的に説明する文章を書いたり、ふりかえりの時間を確保し、自分の意見を表現したりする時間を設定する。
- 話し合いをしたり文章を書いたりする場面を意図的に位置づけ、教科等の学習で自分の考えを表現する力を高められるようにする。
- どのような考えで思考していくのか見通しをもち、根拠をもとに筋道立てて説明する活動を多く取り入れる。